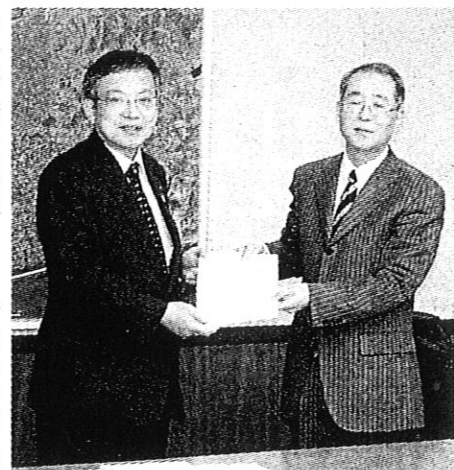


市街地に農産物直売所

第5次総へ提言まとまる

豊橋市



提言書を受け取る佐原市長

豊橋市が来年度に策定する第5次総合計画に反映させる市民の意見を検討する「第5次豊橋市総合計画策定市民会議」(岩崎正弥会長)は3月30日、約10カ月の議論でまとめた提言書を佐原光一市長に渡した。佐原市長は「今後の厳しい社会情勢を乗り切るための知恵をもらった。内容をよく勉強して生かしたい」と感謝の言葉を述べた。

同市民会議は昨年6月に発足、10回の会議を重ねてこのほど提言書をまとめた。各分野ごとに話し合う分科会は当初、3回を予定していたが、「まだ議論が足りない」と全4回に。各委員は予定時間を大幅に超えて熱い議論を交わした。提言書では、提言をするだけでなく、「私たち1人ひとりができること」という項目を設け、「自

施設とする③空き店舗を活用した老人福祉施設や若者との交流施設
流の場を設置④市民税の1%をまちづくり活動に補助する条例制定⑤市民活動の促進や行政とのコーディネートによる支援する第三者機関の設置
（松井俊満）

東 愛 知 新 聞
2010年(平成22年)4月9日(金曜日)

市電延伸や子ども条例

5次総策定へ市民会議が提言

佐原豊橋市長へ

豊橋市第5次総合計画(2011～20年度)の策定で、市民意見を反映させる組織として昨夏発足した計画策定市民会議(会長、岩崎正弥愛知大学教授、26人がこのほど、佐原光一市長へ提言書を手渡した。佐原市長は「内容をよく勉強して(計画策定に)生かしていきたいま

す」と謝辞を述べた。「ともにつくる住みよいまち豊橋」と副題を付けた同提言書(A4判・24頁)は、環境▽産業▽都市基盤▽子ども・教育▽健康・福祉など9章に分け、計73項目の「提言」と「取り組みのアイデア」72項目を列記。各章に「私たち1人ひとりができること」という項目を設け、「にぎわいを再生するため、できるだけ中心市街地に出掛けます」など、市民が果たすべき責任も併記したのが特徴だ。

提言およびアイデアの内容を見ると、まず「環境」では、ごみ袋の有料化、ポイ捨て禁止条例の制定、家庭で

佐原市長を囲んで(素晴らしいみなさんと職員さんのおかげで有意義な議論が出来ました)

